

富山県子育て支援・少子化対策県民会議  
第4回子育て家庭に対する支援施策検討部会議事概要

- 1 日時 平成26年9月10日(水) 15:00~16:30
- 2 場所 県庁4階 大会議室
- 3 議事
  - (1) 平成26年度における県の子育て支援施策等について
    - ・ 中間とりまとめとこれまでの主な施策・国の動き
    - ・ 経済的負担の軽減に関する主な子育て支援施策について
  - (2) 今後取り組むべき施策の案
  - (3) 意見交換
  - (4) 今後のスケジュールについて

**【知事】**

- ・ 県としては、子育て支援、少子化対策を県政の最重要事項の一つと考え、市町村や民間の方々と協力しながら多くの施策を行ってきたところである。
- ・ ただ、先般、日本創成会議から、20歳から39歳までの女性の人口が24、25年後には半分以下になると見込まれる市町村が、全国1700余りの市町村の約半分を占めるというレポートが出されており、県内でも5つの市町が該当している。
- ・ そのような事態を避けるため、国、地方を挙げてしっかりと取り組まなければならない。県としては7月に「子ども政策推進本部」を「子ども政策・人口減少対策推進本部」に改称したうえで、その下に人口減少対策検討チームを配置し、産業振興や雇用の安定、U・I・Jターンの推進など、従来少子化対策の外側としていた分野も含めて、総合的に少子化対策、人口減少対策に取り組もうとしている。
- ・ この検討部会では、これまで希望どおりの数の子どもを持てるようにするためにはどうしたらいいかといったことを議論してきており、前回は子育て支援施策の中間とりまとめをご審議賜ったところである。
- ・ 本日はこれまでの県の施策や国の動向、本検討部会でいただいたご意見なども踏まえ、今後の支援施策の在り方についてさらに議論を深めることとしたい。そして、11月、12月ごろにもう一度ご議論いただき、来年度当初予算編成に間に合うよう、ご提言いただけるとありがたいと考えており、よろしく願いたい。

**【事務局】** 資料1～5説明

**【A委員】**

- ・ 資料1について確認したいが、県内の家庭・地域における子育て支援の状況の部分で、例えば病児・病後児保育実施箇所数は26年度の目標値を既に上回っているが、今後減るのか。
- ・ 市町村別の数値としてはどうなっているのか。各地域の親御さんたちが分かるような状態となっているのか。

### 【部会長】

- ・全体として目標を達成していても、空白地帯となっているところがあるのではというご心配かと思う。

### 【事務局】

- ・この資料における平成 26 年度の目標値は、平成 21 年度に 5 か年の計画として策定した「とやまっ子みらいプラン」における目標値であり、病児・病後児保育に関しては今年 4 月の時点で既に目標を超えているということである。
- ・市町村別の内訳としては、それぞれの市町村のホームページなどで、どこの保育所で実施しているかといったことが公開されている。

### 【B委員】

- ・知事の発言にもあったが、24、25 年後には女性が半分になるとしたときに、子どもの数がどうなるのかという人口問題が一番心配である。先ほど資料説明があったが、その中で 5 年後、10 年後ぐらいまでの人口推移が数値として出されてもいいのではないかと思います。どれだけ少子化が叫ばれていても、一般の方には実感がない方もいらっしゃるのでは、そういった数値を出すことでもっと関心も出てくるのではないかと。
- ・「新しいじめ防止対策推進事業」とは、どういった事業か、これまでの関連事業との継続性はどうか。
- ・また、「とやま親学び推進事業」について、親学びということは重要であるが、今、地域性を重んじられる中で、地域の中で育っていく親子でなければならない。人材育成ということも盛り込まれているが、人材育成で地域の核となる人たちが非常に重要ということ、今後、考えていかなければならない。そのためには、支援策はお金だけではなく、啓蒙事業を行い、富山県が全国に先駆けて地域性の土台をつくるというようなことが大事ではないかと思う。
- ・ボランティアで活動しているところも多々あるので、地域性を大事にし、支援の輪を広げて行っていただきたい。

### 【部会長】

- ・地域を基盤とした信頼性なり、親の支援なりで子育て支援に取り組んでいくべきということかになるかと思う。

### 【事務局】

- ・今後の人口推計については、国立社会保障・人口問題研究所の推計があり、例えば 2040 年に富山県、全国の人口がどのようになるかという推計も公表されているところである。それによると、2010 年時点では富山県の総人口は 109 万 3000 人ほどであるが、2040 年には総人口が 84 万 1000 人余りとなっている。年代別では、2010 年では若年層の 0～14 歳が 14 万 2000 人となっているものが、2040 年には 0～14 歳は 8 万 3000 人ほどになり、率で見ると 2010 年から 2040 年までは 58.5%程度にまで落ち込み、4 割以上減るといふ推計も出されている。このような推計は、5 年単位で出ているものもあるので、そういったものも可能な限り、何か分かりやすい形で整理できればと考えている。

- また、今、子育て支援少子化対策の来年度からの新しい計画の策定・検討も同時並行で進めており、その計画の中でもそういったことに触れていく必要があると考えているところである。
- いじめ対策について。まず、いじめの防止策という観点から、本県においては、インターネットを検索していじめと思われるものを発見し、素早く学校に対応を求めるといったネットパトロールをやっているところ。
- 実際にいじめ等が起きた場合には、子どもたちの心のケアを行うスクールカウンセラーの配置や、家庭の方に問題があつていじめを行っている子どもに対しては、そういったことに対応するスクールソーシャルワーカーといった教員以外の職員を学校に配置し、いじめへの対応を行っている。
- また「いのちの授業」として、それぞれの学校でも取り組んできているが、県としては、例えば助産師や医師を学校へ派遣し、命の尊さについて授業を行ってもらい、子どもたちに自分の命、友だちの命を大切に生きていこうとする心を育てることに取り組んでいるところ。
- 以上の主だった施策を全て含めて、いじめ対策に取り組んでいるところである。

#### 【C委員】

- 2点確認したいが、この会議体で議論することの中に、出生率を上げるという議論と、富山県から都会へ流れていく、特に女性の方々の流出を食い止めるという議論の二つの方向があり、仕分けが必要だと考える。
- 1点目の出生率を上げるという点については、47都道府県の中で、現在、富山県はA～Cランクのどのくらいのランクにあつて、それを5年後においても維持する、あるいは零点何ポイント上げて、その部分についてはモデル地域を目指すというような目標があるのかどうか、教えていただきたい。
- 2点目について、氷見市の場合には2010年に4900人いたお子さん方が、2040年には2000人台となり、現在の57%となるという数字が出ている。実際に生まれてくる子どもたちの数だけでみると3000名近くのうち、約950名近くが流出するだろうという議論がなされており、すなわち3人お子さんのうち1人が都会へ出て行ってしまふのではないかということである。日本創成会議の処方箋の中には、企業そのものを地域に持つてこようということで、地元を持つていこうというコマツのような取り組みが挙げられている。コマツ本社が小松と東京とで同じ1カ月の給料を払ったところ、2.01ポイント、小松市の方では出生率が高いというようなレポートも出てきている。
- 本検討部会ではこの出生率と人口流出の2点の方向について、後者の方は取り扱わずに出生率だけを議論していくのか、あるいは二つとも合わせていくのか、そこの仕分けをお願いしたい。
- また、今後、氷見市では事業を予算化していくにあたり、20代、30代の母親の意見などを調べたうえで進めていきたいと考えているが、県としてはどう考えているのか。

#### 【事務局】

- ・まず、本検討部会の取扱うべき方向性について、子育て家庭に対する支援施策ということで、例えば経済的負担の軽減についてはどういった施策が適切であるかといったことを議論する場としている。出生率の向上については、副次的な意味合いで取り扱うのが良いのではないかと考えている。また、人口流出の関係については、子育て家庭に対する支援というテーマからは若干離れるものとする。
- ・なお、合計特殊出生率でのランクでは、昨年度の数値で1.43であり、国全体の平均並み、高い方からは31位となっているところ。
- ・20代、30代の意見ということに関しては、まず1つ目としては、子育ての基本計画の検討作業の中で、委員の皆様のご意見を伺っているところ。2つ目として、子育て支援タウンミーティングを県内4か所で進めており、知事も出向いて参加者の方からご意見を伺う機会を設けている。また、基本計画の策定にあたっては、昨年度に子育て家庭の保護者を対象としたアンケート調査を実施しており、この中でいただいたご意見から必要な施策が見えてくるのではないかと考えている。また、県庁内の組織であるが、若手職員によるワーキンググループを立ち上げたところであり、出された当事者の意見については本検討部会でも生かしていきたいと考える。

#### 【D委員】

- ・人口減少は本当に深刻に受け止めて考えなくてはならない。この部会ではこれまで、第2子までは産むが第3子までは産まないということが問題ということで、3人目を産まない理由について調べてみると、富山県は製造業が多く、福井県は自営業が多かったということで、やはり子育ての手が足りないということが具体的に出ていたかと思う。
- ・先ほど言及のあった国立社会保障・人口問題研究所の人口推計では、低位推計、中位推計、高位推計とあるが、このままいけば低位推計に近づくのではないか。これをいかに中位に持っていけるか。1~2人であることが本当に大きな影響を与えてくる段階なので、お金を掛けないといけない場所だと思う。
- ・もう既に第1子以降、第2子ができない人が増えてきている。2人は産みたいと大体誰もが思っているが、出産の年齢が高く、年齢が1年でも2年でも高くなると、またさらに子どもができにくくなり、仕事と家庭の両立にさらに不妊治療も両立という状況になりがちである。そうすると「面倒くさいからやめた」ということで、治療に来られない人が非常に多くなっている。
- ・不妊治療の助成金があっても、結局、仕事と不妊治療が両立できないので、治療を諦めている方が多い。そうなったら第2子を産めるためにはどうすればいいかを考えなくてはならない。その一番大きな要因は、お金とか日々の生活の負担感であり、前回いろいろ調べていただいた中にもあるが、パートナーがどれぐらい家庭のことに関わっているかということである。旦那さんがおうちで子育てを手伝ってくれる度合いが多いことは、パートナーが帰ってくる時間が早いことと比例するということが出ていたと思う。
- ・確か合計特殊出生率も男性の労働時間と反比例で、労働時間が長い県は出生率も低い。富山県はトップに入っていたと思う。福井県は比較的男性の労働時間が短くて、出生率は高い。やはり男性の育児参加の時間を増やすことがすごく大切である。
- ・具体的な案としては、例えば朝早い時間、お子さんが保育所に行く時間帯には、お父さ

人はもう仕事に出ているので、お父さんが早く家に帰るためには、女性にではなくて男性にフレックスを使って、子どもが帰ってくる時間にはお父さんが対応するというものはどうか。

- ・放課後児童クラブを見ていると、どうしてもお父さんがフルタイムで働いていて、お母さんがパートで早く帰ってくるという構造が見えて仕方ないが、それでは人口減少になる。そうすると、男性を早く帰すための具体策を練っている企業がどのくらいいるのか。できるだけ早くお父さんをうちに帰してあげないと、第1子から第2子にということにならないと思う。そこはもう少し具体的に踏み込んだ案を提示していただきたい。
- ・第3子まで産む人が本当にいない。例えば子育て応援券や教育資金の奨学給付金は、第3子以降は手厚いが、できれば第1子から手厚くしていただきたい。
- ・資料5の「妊娠期から子育て期にわたる支援のためのワンストップ拠点の整備」とあるが、これは横浜のコーディネーターと同じことをイメージしているのか。子育てのコーディネーター制度と二つになるのではどうかと思うので、ぜひ窓口は1つとしてもらいたい。フィンランドではネウボラという、妊娠、子育て、お金、保育などワンストップで相談できる良い例がある。

#### 【事務局】

- ・妊娠期から子育て期にわたる支援のためのワンストップ拠点については、現在国の概算要求に示されたもので、詳細については判明していないが、今後国からの情報を待ちたいと考えている。

#### 【E委員】

- ・中間とりまとめの中で、子育ての負担感の軽減というものがあるが、家庭で子育てをしている方はこの負担感が本当に強い。保育所には働いていないと基本的には入れないが、本人が特に仕事がしたくて保育園に来ているというのではなく、周りの人がみんな働いて、みんな保育園に子どもを預けに行くから不安になり、子どもを保育園に預けるためにパートに出るという保護者の方が、実際、出てきている。
- ・保育園に預けなくても不安感が少しでも軽減されるような、子育て支援センターなどの制度について、今以上にしっかり充実させられれば、本当は子育てを家でしてもいいという人は実際に子育てを家でできるし、働きたい人は十分預けられるという、メリハリを付けられるような体制を作っていくことができるのではないかと。

#### 【部会長】

- ・新しい子ども・子育て支援制度の中で、どういった支援体制、具体策にしていくかにもよると思う。各市町村でも子ども・子育て会議で取組んでいるが、このあたりにもご意見をいただければと思う。

#### 【F委員】

- ・第2子を持たない方の話を聞くと、お金の負担感よりもパートナーの理解がないということを実感に言われる。それから、両親が遠方にいる場合、自分一人で子育てしなければ

ばいけないときにどこに頼っていいか分からないので、1人しか持ちたくないとも言われる。

- ・子育て支援センターにしろ、一時預かりにしろ、いろいろあるはずだが、情報がしっかり回ってっていないような感じもある。ここにホームページの「Mic.Net」ができたということも書いてあるが、実際、皆さんどれだけ情報をつかんでいらっしゃるのか、ホームページの利用率はどれだけで、こういうページで県の情報がどれだけ皆さんに伝わっているのかというのが疑問である。
- ・子育てサークルに参加したいと言われる方の8割はブログなどインターネットを見て参加している。今どきの子育て世代の皆さんは、やはりインターネットで情報を得る方が多いので、そのあたりの情報発信も、もう少ししていただければと思う。
- ・人口減少対策検討チームが発足したことについて、これは期間はあるのか。この人口減少、少子化対策というのは、今年、来年で済むものではなく、とても長いスパンで見なければいけない課題だと思う。今の子どもたちに子どもを3人持った方がいいと言うような教育、いろいろな選択肢がある中で仕事もあるけれども家庭を持つということの選択がとても大事であるという教育をもっと重視していくべきなのではないかと思うと、とても長いスパンで考えていかなければいけない非常に難しい課題だと思うので、検討チームはどのぐらいの年月をかけて頑張っていけるのかをお聞きしたい。
- ・また、子育て関連のイベントについて、少子化対策県民大会の開催や「ファザーリング全国フォーラム in とやま」などが挙げられている。特にファザーリングフォーラム、お父さんの参加というのが、かなり難しいと思う。これに行こうと思うお父さんばかりであれば、あまり人口減少を叫んでいないような気がするので、その辺の進め方も重要だと思う。アンケート一つとっても、女性、母親に対するアンケートはとても多いが、父親のアンケートはあまりなく、もっと父親の意見がアンケート等にもっと反映されて、実際に目に見える形で要望が出て、それに応えられるようになれば、もっといいと思う。

#### 【事務局】

- ・人口減少対策検討チームの期間、スケジュールについて、今年7月に設立しているが、特にいつまでという終期は設けていない。当面は、来年度の当初予算や県の子育て支援の基本計画にも内容を反映するため、年内あたりをめどにとりまとめを行うことを目標として進めることとしている。
- ・今後は、国の方でも「まち・ひと・しごと創生本部」が立ち上がるなど、新しい動きも出てきているので、県としてもそういったものを見ながら対応していきたい。
- ・子育て支援センターについては、今後も箇所数を増やすことで取り組んでいきたい。また、これまで子育て支援センターでも行っていた相談機能をより充実させ、保育や教育、各市町村の子育て支援事業などを、ニーズに応じてアドバイスしていくという利用者支援事業も新しくできたので、そういったものも含めて子育て家庭の支援になると考えている。
- ・父親の育児参加について、ファザーリングフォーラムに関しては来年度以降、NPO法人ファザーリングジャパンが中心となる実行委員会に県も参画することを検討してい

る。いただいたご意見については、今後立ち上がる実行委員会に持ち帰って、多くの方が参加できるフォーラムを目指したい。なお、開催時期は来年の秋頃を予定している。

#### 【G委員】

- ・1点目として、14歳の挑戦などの育児体験がテレビなどで放映されているのを、最近よく見る。子どもたちが育児体験をしている様子を見ると、学校にいるときとはまた違って、非常に良い影響を幅広く与えているという感じを強く持っている。全員が育児体験というわけにはいかないと思うが、ぜひメディアの方の協力なども頂いて、ああいう情報を広く、子どもたちも含めて県民が得ることができるとういとお考える。
- ・2点目として、大学生など、子育てをしている世代に近い、または同じ世代が子育てを応援したり支援するというのも必要なのではないかと思う。子育て世代だけに注目してそういうことを進めるのではなく、お互いという視点が必要ではないかという気がします。PTAなどの組織にもお願いしながら、個人の子育て応援団も、支援まではできないけれども応援ぐらいただたらできるという人の裾野を増やすことも必要ではないかと思う。
- ・3点目として、子育てに対する啓発、気運の養成について、人口減少などの現状を見ると、県民の問題意識の共有ということが重要になってくるのではないか。県民参加の大会などで、ぜひ富山県民全員が子育ての応援団になるという意識を強く啓発していただき、できれば観光ポスターのようなところに「富山県民は子育てを応援します」ということを書けるぐらいの方向で進めていただければありがたい。

#### 【H委員】

- ・この子育て家庭に対する支援施策検討部会が発足したころ、我々の保育園でも、どうすれば多子世帯が出るのかということで、いろいろ意見を聞いてもらった。その本質というのは、家庭生活、そして夫婦の生活を充実させる大事な柱になっており、やはりそのことを喜びにして家庭を築いていただきたい。現に今、少なくなっているというだけでなく、頑張っ家庭生活を充実している人もいるという例から学んでいきたいと思う。
- ・そのアンケート調査の後、イクメン会というものが我々の保育園にもでき、積極的に協力されているお父さん方が、いろいろな意味でどんなふう育児を考えているのかという意見交換をしたり、バーベキューをしたり、お父さんと子どもだけのチームで公園に遊びに行ったり、具体的な交流も始まってきて、現在も続いている。
- ・子育てに協力するお父さんの会は、多分、姿があまり見えていないと思う。いろいろな子どもの保育所を見ている限り、登降園や保護者会の出席など、子育てに協力するお父さん方の姿が点ではなく面になっているのではないかと思うが、参画の機会がなかなかないところがあると思う。県の方でお父さんの子育て参加を促す中で、現在もいろいろな意味で協力されているお父さん方がたくさんいらっしゃると思うので、そこで組織育成もぜひ提案していただきたいと思う。
- ・経済的な支援を第3子に限らずもっと強化するということに対しては全く賛成である。どこの点で経済的な支援をやれば効果的に子どもが増えていくのかということだが、第2子でも第1子でもというのは、全くその通りだと思う。

- ・子ども・子育て支援新制度が来年から発足します。職場保育所や小規模保育事業も挙げられているが、これについては、これまで目標もなく、これが今後どのように具体化されてくるのかについては、まだ十分見えていない。私どもの方針としても、小規模保育事業を来年考えているが、これは単に今ある地域の子育てグループや小規模の保育所だけではなく、これ自体を面として発展させていく大事な取り組みだと思う。特に0歳から2歳までの、家庭でお子さんを持って育児に悩んでいる親にとっては、随分育児負担が軽減されることもあると思う。国における具体化も必要だが、やはり県としてどのように考えていくかということも、今後、盛り込んでいただければありがたい。

#### 【I 委員】

- ・お父さんの参加というのは、だんだんと本当に増えていることを実感している。放課後児童クラブも充実してきて、数年前と比べると雲泥の差で、内容も充実して人も多くなっており、お迎えに来られる方が、夏休みなどはお父さんになっているというご家庭も結構ある。
- ・それでもやはりお父さんの帰りが遅い家は遅く、子どもが病気になったときに仕事を休むのはお母さんというのが圧倒的であるということで、企業の方でも育休、病児のための育休などは何回か認めていただけたらという指針があると、なおうれしいと思う。
- ・これだけ子育て支援施策が充実しているので、例えば沖縄県などのイメージだと「なんくるないさー」という感じで、みんなで子育てしていこうという機運が高まっているのではないかと思う。富山県でも、案ずるより産むが易しというような、温かい雰囲気づくりをしていくのが、安心して産んでみようかという雰囲気につながっていくのではないか。そういったPRを充実して行ってほしいと思う。

#### 【部会長】

- ・本日のご意見について事務局に持ち帰り、国の動向も見つめながら、どう県民の皆さんに支えられているのだという実感を持ってもらえるような計画にまで発展させていくかということかと思う。もう一方で、計画づくり自体が動いており、そことの連携も含めて、今度、第5回の会議に向けて、協力してつくっていかればと思っている。

#### 【厚生部長】

- ・本日は大変お忙しい中お集まりいただき、大変多くの貴重なご意見を頂き感謝申しあげる。
- ・本部会は富山県をいかに子育てしやすい県にするかという方策を検討する会と考えており、それによって少子化対策として出生率の上昇につながる、あるいは県内からの子どもたちの流出がなくなる、また、富山県に来ていただける流入効果も増える、といったことにつながる施策を検討するものだと理解しているところ。
- ・そういった観点から、今後とも様々なご意見を頂戴したいと考えるが、消費税率が10%にならないと、来年の国の予算の方向さえなかなかはっきりしないという問題が、当面の問題として一つある。
- ・男性の育児参加について、いろいろご意見を頂いたが、その根本に、やはり今の社会の



仕組みそのものがもっと変わっていかないことには、という部分があり、この点については、なかなか県市町村の行政だけでは難しい部分もある。

- ・今後、年末を目途に、国の状況などを見て本会を開き、皆さまの意見を頂戴して、とりまとめに向けて、いろいろご審議いただきたい。

#### 4 閉会